

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議

別記様式第 4 号

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	1 9 9
		決裁期日	平成 2 2 年 8 月 3 0 日
名 称	上富良野町協働のまちづくり推進委員会（第 5 回）		
日 時	平成 2 2 年 8 月 2 3 日（月） 午後 7 時～午後 9 時 1 5 分		
場 所	役場 3 階 第 2 会議室		
出席者	委員 1 0 人 町民生活課事務局 3 人 合計 1 3 名		

内 容

[進行：町民生活課長]

町民生活課長から、欠席連絡のあった委員について報告。

あいさつ

三島会長： 第 5 回会議を開催する。前回に引き続き基本指針の後半部分の協議を行いたいと思う。

町民生活課長： 要綱に基づき、ここから先は会長が進行する。

議題

1 協働のまちづくり基本指針について

基本指針（後半部分）の協議

三島会長： 事務局案を作成したほうがスムーズにいくのではないかとということで事務局案を作成した。前回の続きから協議を行っていきいたい。

吉岡主幹： 吉岡主幹作成の基本指針案（吉岡案）について説明を行なう。

町民生活課長： 最初から省きすぎではないのか。

吉岡主幹： 2 ページの「(1) 協働の基本的な考え方」の議会は馴染まないと思ったので削除させていただいた。基本的には町民と町の協働が大前提となる。

松下副会長： 自治基本条例の中では三位一体という形が基本となっており、自治基本条例をベースにするならば議会を省くことはできないと思う。

町民生活課長： 前回訂正した形でよかったのではないかと思う。

島瀬委員： あっさりしすぎている。また、議会も必要と感じている。

吉岡主幹： では前回のものに戻したいと思う。次に素案の 3 ページの 9 行目にある「新しい公共」という言葉は、ここから取ってしまうとその後は出てこないのどこかで説明したい。

町民生活課長： 前回直したものとまるで違うものができている。前回会議で訂正したものの準備する。準備している間に前回の続きを進めていきいたいと思う。吉岡案の 8 ページから進めていきいたいと思う。

吉岡主幹： 修正部分を説明。

久我委員： 「 町民・地域コミュニティ」の部分の「緒についたばかり」という言葉がわかりづらいと思う。

吉岡主幹： では、「始まったばかり」にしたいと思う。

町民生活課長： しかし、始まったばかりといっても前から団体活動を行っている。

吉岡主幹： 町が推進して行なうのは自治基本条例と基本指針の制定からだと思う。これまでやっていたことが協働であったということだと思う。

町民生活課長： 最後の段落の「しかし、」は前回取ったのではなかったか。

持安委員： 現状と課題だが、課題はどこに書いてあるのか。これだけ見ると、「しかし、」という部分は必要ないのではないかと思う。しかし、この現状は協働を作るための町の現状なので、課題は必要なのではないか。

三島会長： 課題は抜けてしまっているが現状だけでいいのか。

持安委員： 基本的には現状があって、そのためにその特性を捕らえた課題がでてくる。

吉岡主幹： この課題と似た内容のものは、何回も出てくるので削ってしまった。

松下副会長： 上富良野町の現状と課題が5番で協働の主体とその役割が6番になっているが、この順番でいくとバランスが悪いと思うので「協働の主体とその役割」を5番にし、「上富良野町の現状と課題」を6番にしたほうがわかりやすいと思う。

前回の会議内容を修正したもの（修正案）を配付。

町民生活課長： 最後に配ったものは後半の内容が同じなので、このような流れでいいかを確認し、その後、文章を見ていくことにしたいと思う。

三島会長： それでは最初に戻りたいと思う。

町民生活課長： 字句の訂正等あったが、このような形で（1）がある。（2）は「協働が求められる背景と必要性」と重複している部分があるということで削除した。「（1）協働が求められる背景と必要性」は箇条書きの部分を省略しようと思ったが、省略すると文章のつながりがなくなることから箇条書きにさせていただいた。これはうちの町ということではなく、日本の国の背景という形でこのような文章になっている。「 地域コミュニティの希薄化」と上にあった文章を入れてこのようにまとめた。「 住民意識の高まり」については、阪神・淡路大震災の内容を入れ、まとめた。 と と は素案と同じものである。そして、素案の「1.協働とは」の「（2）協働の理念」の12行目の「自分でできることは～基本として、」を「（2）求められる協働のまちづくり」の3行目から入れる。「3.協働の範囲」は順番を入れ替えてあるが、表の関係で入れ替えた。「4.協働の形態」については協働事例のページ数を抜き、後で合わせることにする。前回会議で修正した部分はここまでだが、この後の流れは「上富良野町の現状と課題が」が5番になり、「協働の主体と役割」が6番になった。そして「協働を推進する方策」が来て、最後に「協働に期待される効果」を入れることにする。また、「協働の原則」は前半に入れるかどうかを今後決めていきたいと思っている。ここまでが前回会議の流れとなっている。

三島会長： では修正案の「上富良野町の現状と課題」を見て進めていきたいと思う。

久我委員： 先ほどの松下副会長の話をもう一度聞きたい。

松下副会長から「上富良野町の現状と課題」と「協働の主体とその役割」の順番を入れ替えたほうがいいのではないかという説明を再度行なう。

町民生活課長： 「現状と課題」のまとめ方から言えば、「協働の主体とその役割」が先に来たほうがいいと思う。

三島会長： ということで「協働の主体とその役割」というのが5番にして、「上富良野町の現状

と課題」を6番にする。では進めさせていただきたいと思う。ここからは吉岡案を見ていただき、「協働の主体とその役割」を見ていきたいと思う。

吉岡主幹： 素案では役割と書いてあるが、これは役割という内容ではないと思い、特徴という言葉に置き換えた。次に、水色の表について説明。そして、「(1) 町民は」の中にこの特性を出すのが難しいため、個人、町内会団体、ボランティア団体、NPO等を入れた。また、「(2) 行政は」にし、企業等を省く。

松下副会長： 企業は主体として入っていないが、協働に参加することはないだろうか。

吉岡主幹： 純粋な企業は協働の主体にあてはまりにくい。

三島会長： しかし、入れたほうがいいのではないか。

松下副会長： 1つ1つの企業を見れば関係ないところもあるかもしれないが、企業全体として協働の主体となり得るのならば、企業は入ってこなければならぬと思う。

持安委員： 個人にしても、企業にしても、協働に対して気づくことがあると思うので、企業を外すべきではないと思う。

島瀬委員： 企業に対する具体的な文章は、なしでもいいので項目だけでも入れたらどうだろうか。

吉岡主幹： 企業の項目を入れるのであれば素案の文章を使おうと思う。しかし、これは企業が参加するのではなく、社員が参加しやすい体制を作るだけになってしまう。

持安委員： 例えば、町が暗いなどの課題があれば企業は絶対に入ってくると思う。

吉岡主幹： 企業は復活させることにする。またすべて町民の中にくくってしまったが、このままでいいだろうか。素案のものだとどうしても上から目線になっているように思ってしまう。

吉岡主幹： 協働の担い手となるNPOが少ない。

松下副会長： NPOが少ないことも課題になるのではないか。

久我委員： 「協働の主体とその役割」は今までどおり小さく分けたほうがいいのではないだろうか。

吉岡主幹： 素案の「協働の主体とその役割」の部分は読んでみると役割にならない部分が多いと判断し、1つにまとめた。

三島会長： 1つにまとめてあるほうがいいのか、細かくなっているほうがいいのか。

島瀬委員： 細分化されているほうがわかりやすいと思う。

持安委員： この先どう進んでいくかわからないが、この役割の部分をきちんと正確に作っておかなければならない。そして、そのままの流れで上富良野町の現状、課題というふうに進めると理解している。

吉岡主幹： 素案を見ると中身とタイトルがあっていない部分が多い。

三島会長： 吉岡案では役割を特徴としている。

吉岡主幹： 素案のままで行くなら役割ではないものも多いが、素案のままではいかなければならない。

持安委員： まずは役割という言葉にするか特徴という言葉にするかを決めなければならない。

吉岡主幹： 準備委員会では役割という言い方は上から目線なのでやめようという意見もあった。しかし、事務局案でそのまま進めた。

島瀬委員： 役割という言葉でも違和感がないのでそのままでもいいと思う

三島会長： ではタイトルはこのまま「協働の主体とその役割」ということにする。次に中身に入っていきたいと思う。

松下副会長： 「(1) 町民(個人は)」の が最初に入ってくるのはどうかと思う。むしろ の

「一人ひとりが～大切です。」のところに「自分の持つ～社会貢献活動」を入れるといいと思う。まとめると、「一人ひとりが地域に関心を持ち、自分の持つ知識や能力を、自分の住む地域の活動（住民会・町内会等の活動）や町民活動、ボランティアなどの社会貢献活動に積極的に参加することが大切です。」もし を入れるとしたら、「そのためには、広報紙や～大切です。」というふうにし、関連付けたほうがいいのではないかと思う。

島瀬委員： 関心を持って初めて、広報紙や防災無線で情報を収集するという流れになったほうがいいと思う。

吉岡主幹： これは、自治基本条例自体がまずは情報共有が先にあるので、それに合わせてこういうつくりになっていると思う。しかし、そういうことなら変えても問題ないと思う。もしくは、特に説明する必要がなければ、 を削ってしまうといいかもしれない。

松下副会長： しかし、これでは町民としての役割という表現が出てこないと思う。

吉岡主幹： 準備委員会のときに上から目線の物言いとか意見があり、命令口調に近い表現から柔らかい表現にしたほうがいいということで「～期待されます。」となっているので、余計に役割という感じがしないのかもしれない。

持安委員： 協働の主体とその役割については、 と の内容をひとつにまとめるということだが、先ほども言ったように流れがあるので、素案のままのほうがいいと思う。そして、以後作っていくときに、まとめてもいいと思えばまとめるようにしたらいいと思う。

奥田委員： 最初のページの「(1) 協働の基本的な考え」の図にも出ているように、それぞれの役割や重要性が結ばれているので、そのまま載せたほうがいいと思う。

三島会長： そのようなことでいいだろうか。

島瀬委員： 今日が全てではないが、ある程度決めて進めていかなければならないと思う。

三島会長： では「協働の主体とその役割」はこのままということで進めたいと思う。次に「上富良野町の現状と課題」に移りたいと思う。

吉岡主幹： 前は「町民(個人)・地域コミュニティ」を直した。しかし、今回の修正案では修正されていない。最後に事例をたくさん載せるといいという話だったので吉岡案では住民会などの現状を載せてある。別に盛り込むような事例があれば盛り込んでもいいと思う。

三島会長： は吉岡案でいいだろうか。

町民生活課長： 前回、持安委員が言っていたうちの町の少子高齢化の状況を入れたらいいということだったが、吉岡案には入っていない。

吉岡主幹： 「(1) 上富良野町の現状」のタイトルの下に入れられると思う。

町民生活課長： 総合計画に適切な文章があったので入れるといいと思う。

吉岡主幹： 最初は の中に入れる予定だったので馴染まなかった。

町民生活課長： 総合計画から適切な文書を朗読する。これをうちの町の現状として入れるといいと思う。

持安委員： 少子高齢化についてはインパクトがあるので役割や、協働のまちづくりが求められる背景や必要性のようなところに書くといいと思う。流れから言えばそこに入れたほうが理解しやすいのではないかと考えた。

町民生活課長： 今の話だと修正案の「2. 協働のまちづくりが求められる背景と必要性」と内容が重なってしまうと感じた。

吉岡主幹： 読んでみるとタイトルと内容が違っており、同じことが何度も出てくる。また一つの文章にいろいろなことが書かれているので、わかりにくいところがある。

松下副会長： 素案の22ページの「(3) 話し合いのテーマ」の「高齢化進展について」で少

子高齢化意について書かれており、かなり具体的な内容なのでこの表現を使って前に組み込むことはできないだろうか。

吉岡主幹： 少子高齢化の関係はどこに入れることにするのだろうか。

三島会長： 最初の「2.協働のまちづくりが求められる背景と必要性」でいいのではないだろうか。それではこれをもとに事務局案を作ってください。

町民生活課長： 次回会議開催までに今回の会議の内容を反映した案を作成し、事前に会長、副会長にも確認をお願いしたいと思う。

平倉委員： 今回は、「上富良野町の現状と課題」の前までは修正案で決定ということだろうか。

三島会長： そういうことである。ということで、事務局で修正し、案の作成をお願いします。

2 その他

吉岡主幹： 次回会議の日程は、9月6日（月）午後7時からとする。

閉 会

[会議終了：21 時 15 分]

上富良野町協働のまちづくり推進委員会 委員名簿

任期：平成22年6月29日から平成24年3月31日まで

5

	所属団体・機関の名称	氏名	備考	8月23日
1	住民会長連合会	上村 勉		
2	住民会長連合会	松下 力		
3	社会福祉協議会	持安 弘行		
4	NPO法人たんぼぼの会	三島 功士		
5	ふらの農業協同組合上富良野支所	瀬川 英樹		
6	商工会	境 一義		
7	生活安全推進協議会	島瀬 良一		
8	女性連絡協議会	中澤 正子		
9	リフレッシュ・マイタウン・かみふらの	奥田 哲也		
10	公募	大内 和行		
11	公募	徳武 良弘		
12	公募	久我 みち子		
13	公募	平倉 範子		